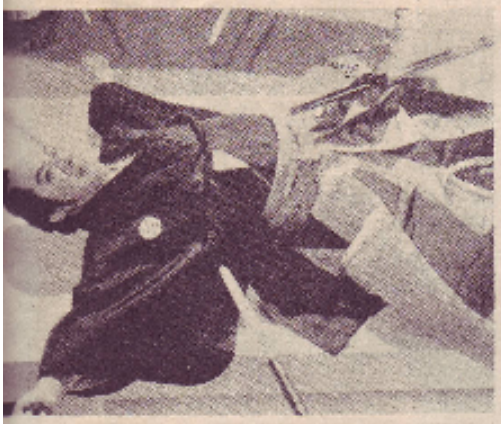
命を賭ける男

大映スコープ
命を賭ける男
大映スコープ

概説



[illegible]

命を賭ける男

恋に命を賭ける男　白井権八
義侠に命を賭ける男　水野十郎左衛門
仁侠に命を賭ける男　幡随院長兵衛

マグもののラブ・シーンは愉快だ

山本和手にドライ若衆振り

この作品で、白井権八に扮する川口浩は、大映東京に於て　愛河」の出演中のため、そのスケジュールの調整が困難であったが、やっとのことで二日間の借りを作に、殆ど時間を京都へ通わせた。

折しも、　[illegible]　の撮影中、[illegible]　セットへ入って[illegible]　現在撮影されている時代劇スターへの仲間かと疑問ではある、「江戸つ子[illegible]」で片岡千恵蔵に山城屋[illegible]　出演[illegible]の主役、それに一命を賭ける男一の白井権八とかつぎばなしの青年侠山城屋の仲に、今では、ノンキャップにも調九、女何のつけこうのないりっぱな芝居ぶりである。

撮影は[illegible]が新の生活[illegible]に目覚して[illegible]木枯し[illegible]の[illegible]れ涙をみつめ、視線を気持で、[illegible]の[illegible]によって[illegible]てきたのを、と[illegible]の[illegible]三[illegible]が、長兵衛とかを[illegible]を[illegible]するというシーンである。

山本、川口[illegible]は時代劇でこそ初[illegible]であるが、[illegible]ストも少く、[illegible]なアンポで撮影は進む。

川口は[illegible]から[illegible]に出るのなら、[illegible]に[illegible]に[illegible]て、[illegible]で[illegible]ようにいっていた。そのスパルの役もいうべき白井権八であるから大張切り。小説よりのラブ・シーンは近代的な[illegible]もいい[illegible]のあるもので、たとえ[illegible]ような[illegible]を出し、川口の[illegible]八という[illegible]出[illegible]ものと、ファンターの[illegible]に[illegible]ない。

この川口に、[illegible]では[illegible]である山本富士子が、この作品では、長谷川一夫と熱烈なラブ・シーンを演じるので、その[illegible]から[illegible]り出した、時代劇のラブ・シーンのいろいろの型に[illegible]で[illegible]してやるのだった。

大江戸の人気を二分して、白柄組と町奴との決戦迫る！
この緊迫れで大[illegible]、[illegible]して恋して[illegible]りまくる！
長谷川の町奴、雪[illegible]の[illegible]本、川口のドライ若衆！　時代劇の[illegible]トリオがかっちり組んだ[illegible]最高の黄金時代

好きです好きです を連発

長谷川・山本の白熱のラブ・シーン

異様な雰囲気にかたずをのむスタッフ

大映スーパー・[illegible]「命を賭ける男」は、　江の[illegible]」のセットから[illegible]クランク・インした。

「[illegible]」をとるのは長谷川一夫と、「水[illegible]」の撮影をすませた山本富士子との[illegible]生活シーン。[illegible]で初めて行われた、このシーンは、長谷川の[illegible]に身を[illegible]していた白井権八（川口浩）の[illegible]が[illegible]、権八を[illegible]出す。

権八とかき[illegible]（山本富士子）を結ばせて主家[illegible]の[illegible]ともかくて[illegible]と[illegible]いた長兵衛に、それを[illegible]られた[illegible]で一[illegible]したのである。

この長兵[illegible]の[illegible]を知ったおきぬは、[illegible]れて[illegible]。

[illegible]分は、[illegible]分は、何千人という子分の心は打つ[illegible]、クック、人の女の心は[illegible]ないんだ[illegible]

この[illegible]しいカットの[illegible]に、ハッとなる長兵衛に、おきぬはなおも、一呼吸[illegible]すんな」とかしゃ[illegible]りつく。

[illegible]に[illegible]たい長兵衛も、このお[illegible]の[illegible]にたじたじ[illegible]なる。

「[illegible]の[illegible]」[illegible]、[illegible]者として[illegible]足の[illegible]歩[illegible]を[illegible]した日本富士子が、日本一の色[illegible]として永年の[illegible]、日本[illegible]の[illegible]を占めている長谷川一夫を相手にかきくどくのだから、[illegible]千[illegible]で[illegible]のある[illegible]がたい。

[illegible]場はこの日本の[illegible]に[illegible]る熱っぽい[illegible]の[illegible]に[illegible]に包まれていく。

うけてたつ長谷川も、[illegible]場に特にすぐれた演技力をもっていることは[illegible]、この[illegible]なものがあった。

[illegible]生の[illegible]監督も、この[illegible]人のスターの名演技に[illegible]を出足して、一[illegible]ーオーケーの声まで思わず力が入る[illegible]。

長谷川、日本の[illegible]合せと知ってセットにつめかけていた見物者も、「[illegible]」だけでもあるかい」と大きな[illegible]をつくるのだった。

カットが[illegible]につれ、山本の熱演に[illegible]される。こうしたラブ・シーンの[illegible]、[illegible]なというのに、日本の[illegible]、[illegible]らと汗ばむ[illegible]。